

| | | | |
|---------------|---|---|-------------------|
| 授業科目名 | 幼児体育指導実習 | 担当教員名 | 加藤 裕二 |
| 必修/選択 | 選択 (ジュニアスポーツ指導員資格) | 開講学年・学期 | 2年 後期 (年間開講数 1講座) |
| 科目区分 | その他の資格取得科目 | 単位数 | 2単位 |
| 施行規則に定める科目区分等 | | 授業方法/担当形態 | 実習 / 単独 |
| | | 特記事項 | |
| 授業の到達目標 | <p>I 子どもの発達とコミュニケーションスキル</p> <p>(1) 一方通行の指示命令による指導は、子どもを指導者の思いどおりに操るだけで、子どものからだところの発達過程において最も重要な個性、創造性、積極性、多様性などを発揮させる機会を奪い取ってしまうことを理解させる。</p> <p>(2) 年齢に拘らず信頼関係を作り上げる必要条件とは、双方向のコミュニケーションであり積極的傾聴であることを理解させる。</p> <p>II 乳幼児期 動きの発達とスキルの獲得</p> <p>(1)発達全体の中での、乳幼児期の動作発達の意義を理解させる。</p> <p>(2)生涯における動作発達の中での、乳幼児期の特徴を理解させる。</p> <p>(3)乳幼児期における基本的動作の質的な変容、及び量的な獲得について理解させる。</p> <p>III 児童前期 動きの発達とスキルの獲得</p> <p>(1)発達全体の中での、児童前期の動作発達の意義を理解させる。</p> <p>(2)生涯における動作発達の中での、児童前期の特徴を理解させる。</p> <p>(3)児童前期における基本的動作と運動組合せの質的な変容、及び量的な獲得について理解させる。</p> <p>IV ジュニア期のスポーツの考え方</p> <p>(1)今日における子どものからだところの諸問題と、その社会的背景を把握・考察し、問題解決のために、あそび・運動・スポーツが必要であることを理解させる。</p> <p>(2)現代の子どものスポーツ指導の問題点を認識させ、ケガや病気及び心のダメージを起こさないような指導法についての理解を深めさせる。</p> <p>(3)子どものスポーツのあり方を理解させ、ライフスタイルとあそび・運動・スポーツとの望ましい関係を認識させる。</p> | | |
| 授業の概要 | <ul style="list-style-type: none"> ・幼児期～児童前期の子どもの発達とコミュニケーションスキルを理解し実践する。 ・幼児期～児童前期の動きの発達とスキルの獲得を理解し実践する。 ・ジュニア期のスポーツの考え方を理解する ・スポーツクラブの実際の指導現場に出て、以上のことがなされている様子を観察、理解し体験する。 ・幼児期～児童前期の子どもの発達と水泳のスキルの獲得している様子を観察、理解する。 ・指導案の作成、各種目の特徴を生かし子どもたちに "できた" 喜びを教える経験を積む。 | | |
| テキスト | 「ジュニアスポーツ指導員専門テキスト」(公財 日本スポーツ協会) | | |
| 参考書・参考資料等 | 「運動遊びカリキュラム通信」(運動保育研究所) | | |
| 成績評価の方法 | 授業参加意欲…20%、受講態度…20%、日々提出のレポート…20%、レポート試験…40% | | |
| 授業計画 | 授業の内容 | 到達目標番号 | |
| 第1回 | ガイダンス 幼児の動き(動線)を確認/体育教室の経緯の紹介 子どもの発達とコミュニケーションスキル①指導者としての心構え ②子どもたちのコミュニケーションの基本 | I -(1) I -(2) | |
| 第2回 | 子どもの発達とコミュニケーションスキル③経過管理の重要性 ④子どもに『聞く耳』を持たせるには?⑤子どもの話を積極的に『傾聴』しよう!⑥子どもたちに『やる気』を起こさせる!⑦子どもたちと『共通認識』を持つ⑧『個人差』の容認⑨指導者の役割とは? | I -(1) I -(2) | |
| 第3回 | コミュニケーションスキルを使って指導実践 (①指導者としての心構え ②子どもたちのコミュニケーションの基本③経過管理の重要性 ④子どもに『聞く耳』を持たせるには?) | I -(1) I -(2) | |
| 第4回 | コミュニケーションスキルを使って指導実践 (①指導者としての心構え ②子どもたちのコミュニケーションの基本⑤子どもの話を積極的に『傾聴』しよう!⑥子どもたちに『やる気』を起こさせる!) | I -(1) I -(2) | |
| 第5回 | コミュニケーションスキルを使って指導実践 (①指導者としての心構え ②子どもたちのコミュニケーションの基本⑦子どもたちと『共通認識』を持つ⑧『個人差』の容認⑨指導者の役割とは?) | I -(1) I -(2) | |
| 第6回 | 動きの発達とスキルの獲得①ごっこ遊びとスポーツ ②自発的な運動の奨励と指導③幼児期に経験させたい運動内容と活動量 ④動きの示範力と活動力の低下 | II -(1),(2) (3) III -(1),(2) (3) | |
| 第7回 | 動きの発達とスキルの獲得⑤体力・体格の発達と学修の幼児期に経験させたい運動内容と活動量 ⑥動きの示範力と活動力の低下⑦幼児期における運動の指導法 | II -(1),(2) (3) III -(1),(2) (3) | |
| 第8回 | 動きの発達とスキルの獲得を理解して指導実践 (①ごっこ遊びとスポーツ ②自発的な運動の奨励と指導③幼児期に経験させたい運動内容と活動量) | II -(1),(2) (3) III -(1),(2) (3) | |
| 第9回 | 動きの発達とスキルの獲得を理解して指導実践 (③幼児期に経験させたい運動内容と活動量 ④動きの示範力と活動力の低下) | II -(1),(2) (3) III -(1),(2) (3) | |
| 第10回 | 動きの発達とスキルの獲得を理解して指導実践 (⑤体力・体格の発達と学修の幼児期に経験させたい運動内容と活動量 ⑥動きの示範力と活動力の低下⑦幼児期における運動の指導法) | II -(1),(2) (3) III -(1),(2) (3) | |
| 第11回 | ジュニア期のスポーツの考え方 ①子どもを取り巻く問題 ②子どもの問題の背景 ③ジュニア期のスポーツの実態 ④運動発達のとらえ方⑤生涯発達からみたジュニア期のスポーツ | IV -(1),(2) (3) | |
| 第12回 | ジュニア期のスポーツの考え方 ⑥子どものスポーツ指導の問題点 ⑦スポーツ・トランスファーとスポーツ・ドロップアウト ⑧ジュニア期のスポーツ指導の留意点⑨子どものライフスタイルとスポーツ | IV -(1),(2) (3) | |

| 授業計画 | 授業の内容 | 到達目標番号 |
|------|--|-------------------|
| 第13回 | ジュニア期のスポーツの考え方を理解して指導実践（①子どもを取り巻く問題 ②子どもの問題の背景 ③ジュニア期のスポーツの実態 ④運動発達のとらえ方⑤生涯発達からみたジュニア期のスポーツ） | IV-(1),(2) (3) |
| 第14回 | ジュニア期のスポーツの考え方を理解して指導実践（⑥子どものスポーツ指導の問題点 ⑦スポーツ・トランスファーとスポーツ・ドロップアウト ⑧ジュニア期のスポーツ指導の留意点⑨子どものライフスタイルとスポーツ） | IV-(1),(2) (3) |
| 第15回 | 指導実習のまとめ（準備運動、補強運動の重要性の理解） | |
| 定期試験 | レポート提出 | |